

調 査 研 究

戦後における精神障害の死亡に関する 統計的分析 I. 全精神障害と老年お よび初老期痴呆

今 泉 洋 子 ・ 三 田 房 美

I. は じ め に

人口資質の面から見た場合、精神障害者が全人口中に占める割合を常に把握しておく必要がある。全国的規模での精神障害実態調査は厚生省公衆衛生局が昭和29年と昭和38年に実施した。また、同省同局では在宅、退院、入院、社会復帰施設等を対象にした全国レベルでの精神障害者実態調査を昭和29年以降10回以上も実施している¹⁾。昭和38年の実態調査から得られた結果によれば²⁾、精神障害者の全国推計数は124万人で人口千人あたりの有病率は12.9人と報告している。その内訳を見ると人口千人あたり精神病5.9人、精神薄弱4.2人、その他の精神障害（中毒性精神障害、精神病質および神経症をさす）2.8人で、それぞれの精神障害者推計数は57万人、40万人、27万人であった。一方、篠崎(1972)³⁾によれば精神障害者の死亡率は一般人口の死亡率に比べて著しく高く、訂正死亡率では男子6.8倍、女子7.5倍も高いと報告している。

これまでに、わが国の人口動態統計を用いた全国レベルでの精神障害者の死亡分析は、ほとんど行なわれていない。僅かに臼井ら(1973)⁴⁾が戦前からの精神病死亡数の年次変動と府県別精神病死亡率の分析を行なっているにすぎない。

表1は第8回(1968)死因統計分類表による精神障害の死因内訳と1978年の精神障害死亡数の内訳を示している。老年および初老期痴呆による死亡数は1,215名で全精神障害死亡数の45%を占めている。次に多い死亡数はアルコール症766名で29%、精神分裂病284名で10%、躁うつ病119名で4%と続く。本研究の目的は人口動態統計を用いて、戦後における精神障害死亡全体の概観を述べると共に精神障害死亡の45%を占める老年および初老期痴呆の死亡分析を行うことである。用いた資料は人口動態統計のほか厚生省統計情報が毎年実施している「患者調査」と「国民健康調査」である。

- 1) 今泉洋子、「遺伝学的側面からみた日本人口の資質」、『人口問題研究』, 第154号, 1980年, pp. 6—25.
- 2) 大谷藤郎、「昭和38年精神衛生実態調査」, 厚生省公衆衛生局監修, 『わが国における精神障害の現状—昭和38年精神衛生実態調査—』, 1965年, pp. 45—94.
- 3) 篠崎英夫、「精神障害者の死亡に関する記述疫学的研究」, 『日本公衆衛生雑誌』, 第19巻12号, 1972年, pp. 645—656.
- 4) 臼井竹次郎・金子功、「精神病死亡数の年次的変動と府県別精神病死亡率」, 『公衆衛生院研究報告』, 第22巻2号, 1973年, pp. 77—82.

表1 精神障害による死因の内訳と1978年の男女別精神障害死亡数の内訳

第8回(1968年)死因統計分類表		死亡数(1978年)		
国際基本 分類番号	死 因	総数(比率)	男	女
290—315	精神障害	2,719(100)	1,466	1,253
290	老年および初老期痴呆	1,215(44.7)	433	782
291	アルコール精神病	69(2.5)	67	2
292	頭蓋内感染に伴う精神病	—	—	—
293	その他の脳性病態に伴う精神病	—	—	—
294	その他の身体的病態に伴う精神病	—	—	—
295	精神分裂病	284(10.4)	119	165
296	躁うつ病	119(4.4)	38	81
297	妄想状態	6(0.2)	2	4
298	その他の精神病	3(0.1)	1	2
299	詳細不明の精神病	46(1.7)	19	27
300	神経症	72(2.7)	28	44
301	人格異常	—	—	—
302	性的偏向	—	—	—
303	アルコール症	766(28.2)	698	68
304	薬物依存	3(0.1)	1	2
305	心因性と推定される身体障害	12(0.4)	1	11
306	他に分類されない特殊症状	48(1.8)	13	35
307	一過性状況性障害	16(0.6)	11	5
308	児童期行動異常	—	—	—
309	身体的病態に伴う精神病性と明示されない精神障害	—	—	—
310	境界精神薄弱	} 精神薄弱	} 60(2.2)	} 35
311	軽度精神薄弱			
312	中度精神薄弱			
313	重度精神薄弱			
314	最重度精神薄弱			
315	詳細不明の精神薄弱			

II. 精神障害死亡率の年次変動の内訳

表2は男女別精神障害死亡数内訳の年次推移を示している。精神障害死亡数の内訳の中で一番多い死因は1950年には男女共に精神分裂病(以下分裂病と略記する)であった。精神障害死亡数の中で分裂病が占める割合は男子38.1%(780名)、女子42.8%(976名)であった。一方、1978年には男子はアルコール症、女子は老年および初老期痴呆死亡が一番多く、精神障害死亡中それぞれが占める割合は47.7%(698名)と62.4%(782名)であった。表2の右端の欄には精神障害死亡者中老年および初老期痴呆の占める割合を男女別に示してある。男子における値は1950年に18.7%から徐々に上昇し1969年に最高値35.5%、その後僅かながら減少し1978年には29.6%になった。一方、女子における値は1950年に22.6%から年次と共に徐々に上昇し、1978年には62.4%を占めるに至った。

表3と図1は1950年から1978年に渡る男女別精神障害死亡率の年次的変動の内訳を示している。

1950年の精神障害死亡率は人口10万あたり男子5.03, 女子5.38から徐々に減少し, 1978年のそれぞれの値は2.60, 2.15と死亡率は年次と共に有意に減少している。1950年から1957年まで男子の方が女子より低い死亡率を示していたが, 1963年以降は逆に男子の方が女子より高い死亡率を示している。男女共に死亡率が年次と共に有意に減少しているのは分裂病, 躁うつ病, 精神薄弱であった。一方, 死亡率が年次と共に有意に上昇しているのは女子の老年および初老期痴呆, 男子のアルコール精神病, 男女共にアルコール症であった。男子の老年および初老期痴呆死亡率は横ばい傾向を示している。表4は年次への精神障害死亡率の回帰係数と標準偏差を示している。

表2 性別精神障害死亡数の年次的変動の内訳, 1950—1978年

年次	死亡数		精神障害死亡数の内訳												精神障害のうち 老年および初老 期痴呆が占める 割合(%)	
	精神障害		老年および 初老期痴呆		アルコール 精神病		精神分裂病		躁うつ病		アルコー ル症		精神薄弱			
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
1950	2,052	2,279	383	514	10	0	783	977	150	191	203	7	96	95	18.7	22.6
1951	2,009	2,329	437	579	9	0	805	1,003	121	214	183	10	101	107	21.8	24.9
1952	2,001	2,380	393	510	20	2	840	1,056	126	157	154	12	123	109	19.6	21.4
1953	2,087	2,384	408	522	24	0	900	1,056	121	180	166	11	120	114	19.6	21.9
1954	1,976	2,156	365	441	12	0	885	995	89	155	154	10	99	102	18.5	20.5
1955	1,880	2,055	357	501	19	1	771	908	86	131	250	10	99	109	19.0	24.4
1956	2,042	2,180	447	596	24	1	783	922	93	157	274	12	107	94	21.9	27.3
1957	1,979	2,093	465	641	26	1	730	836	99	143	269	14	92	103	23.5	30.6
1958	1,900	1,926	524	627	22	3	603	745	97	137	358	12	79	77	27.6	32.6
1959	1,998	2,090	604	758	28	3	579	784	90	128	369	27	90	93	30.2	36.3
1960	2,032	2,020	553	812	47	2	582	716	92	126	474	23	98	70	27.2	40.2
1961	2,055	2,036	622	834	36	3	532	719	98	123	475	31	87	64	30.3	41.0
1962	1,971	2,099	555	876	31	1	518	678	78	139	502	23	87	80	28.2	41.7
1963	1,848	1,878	561	813	59	2	421	566	92	121	489	31	68	77	30.4	43.3
1964	1,834	1,811	553	814	62	3	406	536	76	120	505	42	77	60	30.2	44.9
1965	1,865	1,774	546	833	79	5	363	467	62	108	571	37	67	83	29.3	47.0
1966	1,899	1,695	595	841	85	7	343	459	35	84	586	35	75	57	31.3	49.6
1967	1,908	1,722	597	922	116	5	324	398	44	82	630	30	67	65	31.3	53.5
1968	1,875	1,751	621	988	86	8	271	390	46	89	653	56	72	49	33.2	56.5
1969	1,859	1,722	657	975	104	3	245	359	50	83	623	44	43	48	35.5	56.7
1970	1,809	1,658	599	906	92	3	244	352	69	96	615	48	57	41	33.3	54.7
1971	1,719	1,551	591	875	103	3	197	291	56	82	594	57	45	48	34.5	56.4
1972	1,692	1,515	577	884	81	4	186	251	54	93	629	57	44	39	34.1	58.3
1973	1,854	1,662	647	1,007	84	10	213	289	44	103	684	47	44	36	34.9	60.6
1974	1,770	1,569	538	935	99	3	215	253	44	96	727	59	54	49	30.5	59.6
1975	1,714	1,369	510	810	95	1	174	235	54	94	753	55	39	31	29.8	59.2
1976	1,660	1,401	475	873	67	6	157	203	45	82	790	60	32	26	28.8	62.3
1977	1,532	1,261	430	760	67	1	157	192	52	81	722	67	18	30	28.1	60.3
1978	1,466	1,253	433	782	67	2	119	165	38	81	698	68	35	25	29.6	62.4

表3 性別精神障害死亡率の年次的変動の内訳, 1950—1978年

(人口10万対)

年次	精神障害		老年および初老期痴呆		アルコール精神病		精神分裂病		躁うつ病		アルコール症		精神薄弱	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1950	5.03	5.38	0.94	1.21	0.03	0	1.92	2.30	0.37	0.45	0.50	0.02	0.23	0.22
1951	4.84	5.41	1.05	1.34	0.02	0	1.94	2.33	0.29	0.50	0.41	0.02	0.24	0.25
1952	4.75	5.45	0.93	1.17	0.05	0.005	1.99	2.42	0.30	0.36	0.33	0.03	0.29	0.25
1953	4.88	5.38	0.95	1.18	0.06	0	2.11	2.39	0.28	0.41	0.39	0.02	0.28	0.26
1954	4.56	4.80	0.84	0.98	0.03	0	2.04	2.22	0.21	0.35	0.36	0.02	0.23	0.23
1955	4.29	4.52	0.81	1.10	0.04	0.002	1.76	2.00	0.20	0.29	0.57	0.02	0.23	0.24
1956	4.60	4.75	1.01	1.30	0.05	0.002	1.77	2.01	0.21	0.34	0.62	0.03	0.24	0.20
1957	4.42	4.52	1.04	1.38	0.06	0.002	1.63	1.81	0.22	0.31	0.60	0.03	0.21	0.22
1958	4.20	4.12	1.16	1.34	0.05	0.006	1.34	1.60	0.22	0.29	0.79	0.03	0.17	0.16
1959	4.37	4.42	1.32	1.60	0.06	0.006	1.27	1.66	0.20	0.27	0.81	0.06	0.20	0.20
1960	4.43	4.25	1.21	1.71	0.10	0.004	1.27	1.51	0.20	0.27	1.03	0.05	0.21	0.15
1961	4.44	4.24	1.34	1.74	0.08	0.006	1.15	1.50	0.21	0.26	1.03	0.06	0.19	0.13
1962	4.22	4.33	1.19	1.81	0.07	0.002	1.11	1.40	0.17	0.29	1.07	0.05	0.19	0.17
1963	3.91	3.84	1.19	1.66	0.13	0.004	0.89	1.16	0.19	0.25	1.04	0.06	0.14	0.16
1964	3.84	3.66	1.16	1.65	0.13	0.006	0.85	1.08	0.16	0.24	1.06	0.08	0.16	0.12
1965	3.87	3.55	1.13	1.66	0.16	0.010	0.75	0.93	0.13	0.22	1.18	0.07	0.14	0.17
1966	3.91	3.36	1.22	1.67	0.18	0.014	0.71	0.91	0.07	0.17	1.21	0.07	0.15	0.11
1967	3.88	3.37	1.21	1.81	0.24	0.010	0.66	0.78	0.09	0.16	1.28	0.06	0.14	0.13
1968	3.76	3.39	1.25	1.91	0.17	0.016	0.54	0.76	0.09	0.17	1.31	0.11	0.14	0.09
1969	3.69	3.30	1.30	1.87	0.21	0.006	0.49	0.69	0.10	0.16	1.24	0.08	0.09	0.09
1970	3.58	3.16	1.17	1.70	0.18	0.006	0.48	0.67	0.14	0.18	1.20	0.09	0.11	0.08
1971	3.36	2.92	1.14	1.62	0.20	0.006	0.38	0.55	0.11	0.15	1.14	0.11	0.09	0.09
1972	3.26	2.81	1.10	1.62	0.16	0.007	0.36	0.47	0.10	0.17	1.19	0.10	0.08	0.07
1973	3.50	3.08	1.21	1.82	0.16	0.018	0.40	0.52	0.08	0.19	1.28	0.08	0.08	0.07
1974	3.30	2.82	1.00	1.67	0.18	0.005	0.40	0.45	0.08	0.17	1.35	0.11	0.10	0.09
1975	3.13	2.42	0.93	1.42	0.17	0.002	0.32	0.42	0.10	0.17	1.37	0.10	0.07	0.05
1976	3.00	2.45	0.85	1.52	0.12	0.010	0.28	0.36	0.08	0.14	1.42	0.10	0.06	0.05
1977	2.74	2.19	0.77	1.31	0.12	0.002	0.28	0.33	0.09	0.14	1.28	0.12	0.03	0.05
1978	2.59	2.14	0.77	1.34	0.12	0.003	0.21	0.28	0.07	0.14	1.24	0.12	0.06	0.04

表4 年次への性別精神障害死亡率(人口10万対)の回帰係数とその標準偏差, 1950—1978年

死 因	回 帰 係 数 ± 標 準 偏 差	
	男 子	女 子
精神障害	-0.0747±0.0034**	-0.1156±0.0039**
老年および初老期痴呆	-0.0004±0.0038	0.0148±0.0050**
アルコール精神病	0.0058±0.0009**	—
精神分裂病	-0.0733±0.0035**	-0.0836±0.0030**
躁うつ病	-0.0086±0.0007**	-0.0107±0.0009**
アルコール症	0.0380±0.0031**	0.0038±0.0002**
精神薄弱	-0.0081±0.0004**	-0.0079±0.0004**

** 1%水準で有意.

図1 性別精神障害死亡率の年次的変動の内訳, 1950—1978年

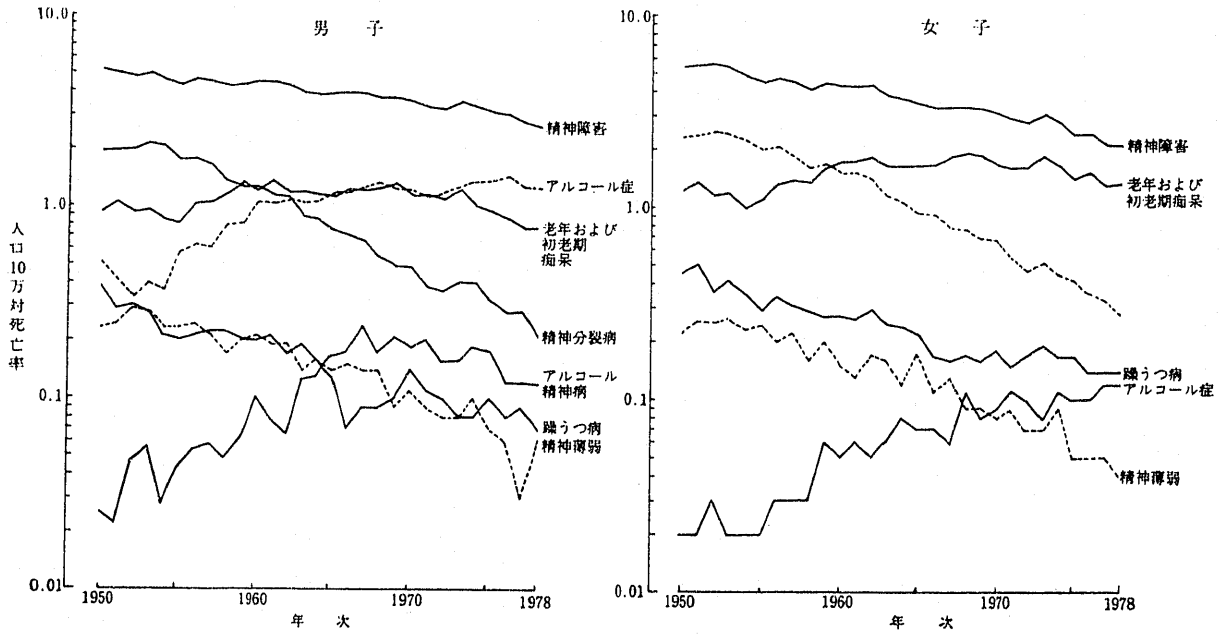


表5 性・年齢階級別老年および初老期痴呆死亡数と死亡率の年次推移

年次	老年および初老期痴呆死亡数 (男子)						男子死亡率 (人口10万対)					
	15~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	15~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
1950	4	40	30	67	92	150	0.02	1.29	2.70	8.42	17.04	38.17
1951	5	37	58	70	93	174	0.02	1.15	5.11	8.84	17.10	40.85
1952	4	38	49	73	78	151	0.02	1.15	4.19	8.98	13.88	34.09
1953	6	42	48	69	101	142	0.03	1.24	4.07	8.16	17.81	30.60
1954	2	37	44	75	67	140	0.01	1.07	3.67	8.43	11.59	28.51
1955	5	31	35	64	84	138	0.02	0.88	2.85	6.96	14.14	26.80
1956	5	33	35	72	102	200	0.02	0.92	2.74	7.64	17.20	37.11
1957	0	35	62	79	93	196	—	0.96	4.71	8.20	15.30	35.77
1958	3	34	43	102	114	228	0.01	0.92	3.15	10.41	17.98	40.14
1959	3	35	70	95	140	261	0.01	0.93	5.01	9.53	20.99	44.46
1960	3	30	53	71	127	269	0.01	0.78	3.69	6.91	18.30	44.68
1961	2	33	47	115	131	294	0.01	0.85	3.15	10.73	18.42	48.04
1962	2	29	59	86	101	278	0.01	0.74	3.81	7.79	13.84	44.34
1963	0	31	44	87	116	283	—	0.78	2.77	7.56	15.57	43.14
1964	1	24	42	87	113	286	0.01	0.59	2.60	7.36	14.83	41.33
1965	4	28	54	92	119	249	0.01	0.68	3.32	7.55	15.08	34.92
1966	2	18	58	85	131	301	0.01	0.43	3.59	6.69	15.86	40.95
1967	1	21	35	95	125	320	0.00	0.50	2.12	7.20	14.59	41.78
1968	5	32	55	80	137	311	0.02	0.77	3.28	5.90	15.29	39.32
1969	4	29	53	102	131	337	0.01	0.70	3.08	7.36	14.19	40.85
1970	5	29	46	80	129	308	0.02	0.69	2.60	5.68	13.12	35.40
1971	2	23	30	79	123	331	0.01	0.54	1.64	5.63	12.14	36.33
1972	4	14	37	76	115	330	0.01	0.33	1.99	5.31	10.88	34.48
1973	6	20	26	64	121	410	0.02	0.46	1.38	4.38	11.07	40.71
1974	10	5	32	49	109	332	0.03	0.11	1.68	3.25	9.74	31.68
1975	2	15	30	61	83	319	0.01	0.32	1.55	3.88	7.22	28.48
1976	2	15	27	54	95	282	0.01	0.30	1.38	3.31	8.25	23.84
1977	2	9	22	54	68	275	0.01	0.17	1.13	3.24	5.73	21.98
1978	6	14	18	42	63	290	0.02	0.25	0.93	2.47	5.17	21.95

Ⅲ 年齢階級別死亡率

表5は1950年から1978年までの性・年齢階級別老年および初老期痴呆の死亡数と死亡率の年次推移を示している。死亡年齢が15～49歳の男子死亡率は人口10万あたり0.01～0.02で年次変化はみられなかった。一方、女子の死亡率は人口10万あたり0.01～0.03であるが、死亡率は年次と共に有意に減少している。男子の15～49歳および男女共に75歳以上を除いたどの年齢階級でも老年および初老期痴呆死亡率は年次と共に有意に減少している。75歳以上の死亡率は男子が減少傾向、女子が上昇傾向を示しているが、いずれも統計的有意水準には至らなかった。

表6は性・年齢階級別の老年および初老期痴呆による死亡数と死亡率を3年次群に分けて示してある。1950年から1978年の間に本疾患により44歳未満で死亡した者の割合は僅か0.1% (47/37,272) にすぎない。60歳以上の本疾患による死亡率は性別、年次群と無関係に年齢と共に急速に上昇している。次に、老年および初老期痴呆により75歳以上で死亡した者の割合を年次群別に計算すると、男子では40%、50%、60%、女子では50%、60%、70%と死亡年次が新しくなるに従って、この割合は増えている。一方、古い年次群と新しい年次群における男子の死亡率は人口10万あたり1.01、0.99と同程度である。しかし、両年次群で老年および初老期痴呆死亡者の中で75歳以上の占める割合を比べると後者の方が20%も増えている。この増加分は75歳未満の本疾患死亡数の減少によるものであり、50

表5 (つづき)

年次	老年および初老期痴呆死亡数(女子)						女子死亡率(人口10万対)					
	15～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	15～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
1950	9	26	28	94	105	252	0.04	0.86	2.35	9.64	14.17	37.89
1951	5	32	54	64	142	282	0.02	1.02	4.46	6.65	19.11	39.72
1952	1	40	45	64	119	241	0.00	1.23	3.65	6.56	15.56	32.22
1953	2	38	37	90	99	256	0.01	1.14	2.99	9.07	12.81	32.53
1954	5	27	37	73	99	199	0.02	0.79	2.96	7.10	12.64	23.98
1955	4	22	39	85	107	244	0.02	0.63	3.07	8.11	13.39	27.95
1956	6	32	54	105	112	287	0.03	0.90	4.08	9.86	14.14	31.47
1957	7	33	55	97	135	314	0.03	0.90	4.05	8.96	16.85	33.58
1958	4	32	47	96	113	335	0.02	0.85	3.32	8.75	13.88	34.47
1959	3	43	50	105	154	403	0.01	1.10	3.46	9.46	18.27	40.10
1960	4	29	65	99	141	474	0.02	0.73	4.35	8.74	16.21	46.29
1961	1	29	56	107	167	474	0.00	0.71	3.60	9.04	18.85	45.71
1962	3	37	69	88	169	510	0.01	0.88	4.26	7.22	18.69	48.16
1963	3	34	51	113	156	456	0.01	0.79	3.06	8.88	16.96	41.72
1964	4	31	36	92	143	508	0.01	0.69	2.11	7.03	15.33	44.60
1965	2	27	53	109	142	500	0.01	0.59	3.08	8.12	14.85	43.07
1966	3	27	44	96	149	522	0.01	0.57	2.56	6.86	14.87	43.98
1967	1	28	49	100	167	577	0.00	0.58	2.77	6.84	16.12	47.03
1968	3	30	60	100	175	619	0.01	0.62	3.31	6.61	16.16	49.13
1969	5	33	41	104	160	630	0.02	0.67	2.16	6.71	14.35	48.13
1970	3	31	42	84	133	613	0.01	0.61	2.11	5.26	11.25	44.84
1971	3	26	47	72	150	577	0.01	0.50	2.24	4.51	12.10	40.46
1972	2	21	36	59	145	621	0.01	0.40	1.66	3.59	11.15	41.62
1973	1	25	39	68	154	720	0.00	0.46	1.75	4.02	11.42	46.09
1974	3	19	43	77	171	622	0.01	0.34	1.89	4.33	12.36	38.40
1975	2	24	29	55	133	567	0.01	0.42	1.23	2.93	9.31	32.93
1976	5	16	28	52	122	650	0.02	0.27	1.17	2.62	8.50	35.79
1977	5	17	40	45	97	556	0.02	0.28	1.66	2.19	6.53	29.00
1978	1	28	31	54	105	563	0.00	0.44	1.28	2.54	6.84	27.82

～54歳で1%，55～59歳で4%，60～64歳で5%，65～69歳で6%，70～74歳で3%それぞれ減少している。このことは、年次と共に老年および初老期痴呆の発病年齢が遅くなったのか、あるいは発病年齢が両年次群で同じであっても医療水準の向上により、本疾患に罹患後の合併症による死亡率の低下により寿命が伸びたかによるものと思われる。本疾患の平均死亡年齢の推移は次章で述べる。

表7は1950年から1979年までの性・年齢階級別精神障害死亡数と死亡率の年次推移を示している。

表6 性・年齢階級別老年および初老期痴呆の死亡数と死亡率の年次推移，1950—1978年

死亡年齢 (歳)	1950 — 1959		1960 — 1969		1970 — 1978	
	男	女	男	女	男	女
死 亡 数						
15 ～ 19	0	0	0	1	0	0
20 ～ 24	0	0	1	0	1	0
25 ～ 29	0	0	0	0	0	0
30 ～ 34	0	0	0	0	0	1
35 ～ 39	0	0	1	2	4	2
40 ～ 44	7	7	7	7	11	8
45 ～ 49	30	39	15	19	23	14
50 ～ 54	94	85	75	83	45	52
55 ～ 59	268	240	200	222	99	155
60 ～ 64	474	446	500	524	268	335
65 ～ 69	766	873	900	1,008	559	566
70 ～ 74	964	1,185	1,231	1,569	906	1,210
75 ～	1,780	2,813	2,928	5,270	2,877	5,489
不詳	0	1	2	3	7	0
合計	4,383	5,689	5,860	8,708	4,800	7,832
死 亡 率 (人口10万対)						
15 ～ 19	0	0	0	0	0	0
20 ～ 24	0	0	0	0	0	0
25 ～ 29	0	0	0	0	0	0
30 ～ 34	0	0	0	0	0	0
35 ～ 39	0	0	0	0.01	0.01	0.01
40 ～ 44	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02
45 ～ 49	0.14	0.18	0.07	0.07	0.07	0.04
50 ～ 54	0.50	0.45	0.35	0.39	0.19	0.19
55 ～ 59	1.69	1.52	1.05	1.08	0.53	0.67
60 ～ 64	3.83	3.45	3.13	3.09	1.57	1.65
65 ～ 69	8.57	8.45	7.45	7.53	4.06	3.46
70 ～ 74	16.38	15.09	15.52	16.17	9.10	9.81
75 ～	35.79	33.34	41.72	45.84	29.76	36.73
不詳	—	—	—	—	—	—
合計	1.01	1.26	1.22	1.75	0.99	1.55

男子の精神障害死亡率はどの年齢階級でも年次と共に有意に減少している。一方、女子の精神障害死亡率は75歳未満の年齢階級では年次と共に有意に減少しているが、75歳以上では年次に対し横ばい傾向を示し、年次への死亡率の回帰係数は0.0022±0.1646であった。死亡年齢が0～14歳、15～24歳の死亡率は男女共に同程度であるが、25～44歳では1950—1957年まで女子の方が男子より高い死亡率を示すが、1960年以降は男子の方が女子より高い死亡率になり、年次と共に男女差は広がっている。死亡年齢が45～64歳の死亡率は1954年以降男子の方が女子より高い死亡率を示し、年次と共に死亡率の男女差は広がっている。一方、死亡年齢が65～74歳では男子の方が女子より僅かに高い死亡率を示している。死亡年齢が75歳以上の死亡率は1950—1961年まで男子の方が女子より僅かに高く、1967年以降は逆に女子の方が男子より僅かに高い死亡率を示している。

表7 性・年齢階級別精神障害の死亡数と死亡率の年次推移

年次	精神障害死亡数(男子)						男子死亡率(人口10万対)					
	0～14歳	15～24歳	25～44歳	45～64歳	65～74歳	75歳以上	0～14歳	15～24歳	25～44歳	45～64歳	65～74歳	75歳以上
1950	59	268	623	614	293	191	0.39	3.29	6.39	9.86	21.93	48.60
1951	59	259	600	621	287	183	0.39	3.12	5.98	9.79	21.48	42.96
1952	42	267	629	603	264	196	0.28	3.16	6.11	9.30	19.20	44.24
1953	48	300	641	623	304	170	0.32	3.51	6.05	9.43	21.51	36.64
1954	37	255	626	600	276	181	0.24	2.98	5.74	8.88	18.80	36.86
1955	38	220	553	625	271	173	0.25	2.58	4.93	9.06	17.91	33.59
1956	39	197	602	599	349	256	0.26	2.26	5.21	8.50	22.72	47.50
1957	41	190	538	636	327	246	0.28	2.14	4.53	8.87	20.80	44.89
1958	37	129	500	601	347	286	0.25	1.44	4.09	8.23	21.50	50.35
1959	42	120	496	652	380	308	0.29	1.31	3.96	8.77	22.84	52.47
1960	36	125	528	628	387	328	0.25	1.42	4.10	8.33	22.49	54.49
1961	37	118	488	651	420	341	0.26	1.36	3.69	8.52	23.56	55.72
1962	35	101	499	644	352	340	0.25	1.12	3.67	8.34	19.19	54.23
1963	18	74	437	606	377	336	0.13	0.78	3.14	7.79	19.88	51.22
1964	27	75	443	576	363	350	0.21	0.75	3.12	7.36	18.67	50.58
1965	24	79	461	595	397	309	0.19	0.79	3.12	7.48	19.77	43.34
1966	23	67	472	577	381	379	0.18	0.67	3.10	7.20	18.18	51.56
1967	25	75	476	555	393	384	0.20	0.74	3.05	6.86	18.06	50.13
1968	7	64	439	587	389	382	0.06	0.63	2.75	7.15	17.27	48.29
1969	7	47	471	535	380	411	0.06	0.47	2.89	6.37	16.46	49.82
1970	11	73	449	516	370	478	0.09	0.73	2.70	5.94	15.57	43.45
1971	15	58	411	499	338	394	0.12	0.58	2.48	5.55	14.00	43.25
1972	7	48	404	498	340	393	0.05	0.50	2.39	5.37	13.67	41.07
1973	7	52	452	554	317	470	0.05	0.56	2.60	5.78	12.42	46.67
1974	7	48	460	554	329	367	0.05	0.54	2.59	5.60	12.52	35.02
1975	10	35	435	555	294	380	0.07	0.41	2.36	5.39	10.80	33.93
1976	4	37	414	559	300	338	0.03	0.44	2.23	5.25	10.78	28.57
1977	5	35	367	512	280	333	0.04	0.43	1.97	4.65	9.82	26.62
1978	5	25	319	512	237	366	0.04	0.31	1.71	4.50	8.12	27.71
1979	3	20	298	487	290	480	0.02	0.24	1.59	4.15	9.67	34.66

年齢階級別精神障害死亡率が10大死因の中に始めて仲間入りしたのは、男子の35～39歳の年齢階級で1968年に第10位、1972—1974年および1977年に第9位、1976—1979年に第8位と年次と共に上位に進出している。また、男子の30～34歳で1973年に第10位、男子の40～44歳で1976—1977年に第8位、1978年に第10位、1979年は第7位になった。このように、30～44歳の男子の精神障害死亡率が10大死因に入ってきたのは、これらの年齢層のアルコール症死者数の上昇によるものである。女子の精神障害死亡率は、どの年齢階級でも10大死因には入っていない。

表7 (つづき)

年次	精神障害死亡数(女子)						女子死亡率(人口10万対)					
	0～14歳	15～24歳	25～44歳	45～64歳	65～74歳	75歳以上	0～14歳	15～24歳	25～44歳	45～64歳	65～74歳	75歳以上
1950	32	251	839	569	296	291	0.22	3.08	7.52	9.15	17.25	43.76
1951	33	225	874	625	295	276	0.23	2.72	7.61	9.88	17.30	38.87
1952	41	259	850	595	312	322	0.28	3.10	7.23	9.18	17.92	43.05
1953	34	264	850	628	300	308	0.23	3.13	7.06	9.45	17.00	39.14
1954	41	222	808	557	283	244	0.28	2.63	6.56	8.14	15.63	29.40
1955	50	188	675	530	321	291	0.34	2.21	5.37	7.55	17.38	33.33
1956	41	154	723	564	340	358	0.28	1.79	5.63	7.79	18.31	39.25
1957	33	176	618	543	355	368	0.23	2.01	4.71	7.30	18.85	39.36
1958	23	133	516	534	330	390	0.16	1.50	3.84	6.98	17.27	40.12
1959	34	115	564	511	385	481	0.25	1.28	4.12	6.49	19.71	47.86
1960	25	79	470	533	371	542	0.18	0.90	3.38	6.62	18.52	52.93
1961	28	96	468	485	425	534	0.20	1.11	3.29	5.88	20.53	51.49
1962	28	100	459	503	403	606	0.21	1.12	3.16	5.96	18.98	57.22
1963	31	71	373	469	382	552	0.24	0.76	2.52	5.45	17.43	50.50
1964	20	78	342	431	361	579	0.16	0.80	2.28	4.92	16.11	50.83
1965	35	53	301	418	392	574	0.28	0.53	1.97	4.66	17.05	49.44
1966	15	71	260	403	361	585	0.12	0.71	1.66	4.39	15.03	49.28
1967	19	58	251	370	380	644	0.16	0.58	1.57	3.93	15.21	52.49
1968	11	44	255	360	397	682	0.09	0.44	1.57	3.73	15.30	54.13
1969	12	49	231	371	355	702	0.10	0.50	1.40	3.74	13.32	53.63
1970	8	38	209	373	347	681	0.07	0.38	1.26	3.64	12.48	49.82
1971	12	42	190	322	338	647	0.10	0.42	1.14	3.03	11.91	45.37
1972	8	45	169	309	301	683	0.06	0.47	0.99	2.83	10.23	45.78
1973	7	34	165	328	335	793	0.05	0.37	0.94	2.93	11.03	50.77
1974	7	33	162	331	346	690	0.05	0.38	0.90	2.89	10.95	42.59
1975	2	26	158	274	284	625	0.02	0.31	0.86	2.32	8.59	36.30
1976	3	27	150	240	270	711	0.02	0.33	0.81	1.98	7.90	39.15
1977	5	19	140	233	229	634	0.04	0.24	0.75	1.88	6.47	33.07
1978	4	24	125	238	246	616	0.03	0.30	0.67	1.87	6.72	30.43
1979	4	13	77	169	264	773	0.03	0.16	0.41	1.30	6.94	36.45

IV 平均死亡年齢

表8は老年および初老期痴呆の性別平均死亡年齢とその標準偏差の年次推移を示している。図2は、本死因により死亡した者の性別平均死亡年齢と平均寿命⁵⁾の年次推移を示している。老年および初老期痴呆の平均死亡年齢は1950年に男子72.2歳、女子74.3歳から年次と共に徐々に伸び1978年のそれぞれの値は77.4歳と78.8歳になった。一方、この間の平均寿命は1950年に男子58.0、女子61.5歳から年次と共に徐々に伸び1978年のそれぞれの値は73.0歳と78.3歳になった。1978年における女子の平均寿命と老年および初老期痴呆の平均死亡年齢が共に78歳と同じである。また、1975年以降、女子の平均

表8 老年および初老期痴呆で死亡した者の年次・性別平均死亡年齢と標準偏差, 1950—1978年

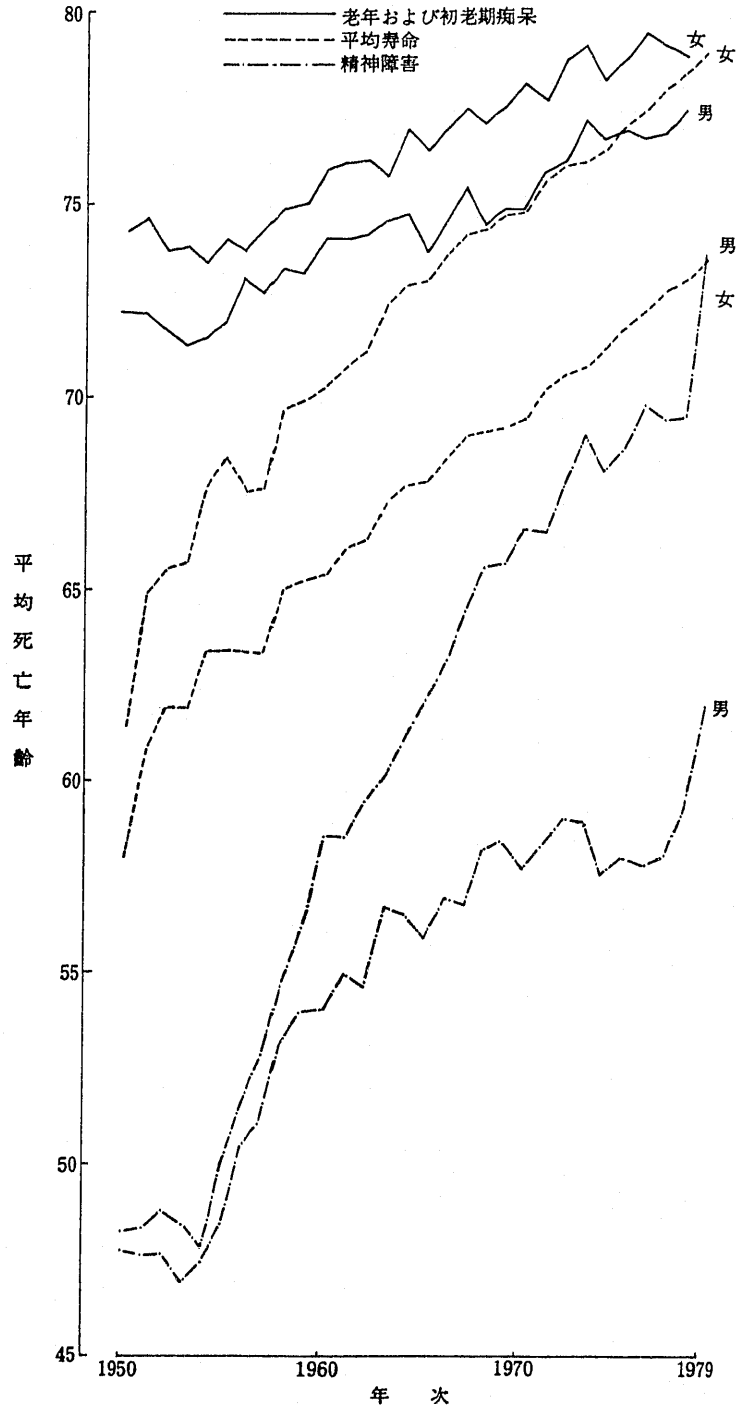
年次	総数			男			女		
	死亡数	平均死亡年齢	標準偏差	死亡数	平均死亡年齢	標準偏差	死亡数	平均死亡年齢	標準偏差
1950	897	73.36	9.19	383	72.17	9.09	514	74.25	9.17
1951	1,016	73.51	9.28	437	72.11	9.17	579	74.57	9.22
1952	903	72.86	9.21	393	71.69	9.22	510	73.76	9.10
1953	930	72.73	9.08	408	71.32	9.02	522	73.82	8.97
1954	805	72.56	8.85	365	71.49	8.68	440	73.44	8.89
1955	858	73.17	8.49	357	71.91	8.63	501	74.07	8.27
1956	1,043	73.46	8.75	447	73.04	8.78	596	73.78	8.71
1957	1,106	73.61	8.83	465	72.67	8.51	641	74.29	9.00
1958	1,151	74.12	8.69	524	73.31	8.57	627	74.80	8.74
1959	1,362	74.16	8.68	604	73.19	8.55	758	74.94	8.70
1960	1,365	75.08	8.67	553	74.03	8.49	812	75.80	8.71
1961	1,456	75.16	8.53	622	74.04	8.50	834	76.00	8.45
1962	1,431	75.33	8.91	555	74.14	8.80	876	76.08	8.90
1963	1,374	75.19	8.61	561	74.51	8.56	813	75.67	8.61
1964	1,367	75.99	8.58	553	74.70	8.22	814	76.87	8.70
1965	1,379	75.32	8.76	546	73.70	8.81	833	76.38	8.56
1966	1,436	75.91	8.47	595	74.52	8.14	841	76.90	8.56
1967	1,519	76.59	8.57	597	75.38	8.20	922	77.38	8.71
1968	1,607	76.03	9.02	620	74.40	9.11	987	77.04	8.82
1969	1,629	76.38	8.91	656	74.82	8.73	973	77.44	8.88
1970	1,503	76.78	9.15	597	74.82	9.04	906	78.08	8.98
1971	1,463	76.88	8.57	588	75.77	8.34	875	77.64	8.65
1972	1,460	77.62	8.58	576	76.06	8.60	884	78.64	8.41
1973	1,654	78.30	8.60	647	77.11	8.71	1,007	79.06	8.44
1974	1,472	77.61	8.57	537	76.61	8.57	935	78.18	8.52
1975	1,320	77.99	8.72	510	76.89	8.79	810	78.69	8.60
1976	1,348	78.41	8.64	475	76.62	8.69	873	79.38	8.45
1977	1,190	78.22	8.76	430	76.74	8.21	760	79.05	8.95
1978	1,215	78.27	9.18	433	77.35	9.71	782	78.79	8.83

5) 厚生省大臣官房統計情報部簡易生命表による。

寿命は男子の本疾患による平均死亡年齢より高くなった。なお、1978年の平均寿命の男女差が5歳であるにの対し、本疾患では1.4歳と小さな値が得られた。

表9は精神障害の性別平均死亡年齢とその標準偏差の年次推移を示している。図2は本疾患の平均死亡年齢の年次推移と共に老年および初老期痴呆の値および平均寿命の推移も示している。精神障害の平均死亡年齢は1950年に男子47.6歳、女子48.2歳から年次と共に徐々に伸び、1960年のそれぞれの値は54.0歳、58.6歳とこの間に男子は6.4歳、女子は10.4歳も延命した。また、1960年を境に男女間の平均死亡年齢の差は広がり始め、1979年のそれぞれの値は61.8歳、73.6歳と年齢差が11.8歳も開い

図2 老年および初老期痴呆，精神障害で死亡した者の平均死亡年齢と平均寿命の年次推移



た。このように男女間の年齢差が広がり始めた理由として、次のことが考えられる。男子のアルコール症の平均死亡年齢は1950年以降50歳前後と横ばいを続けている⁶⁾。一方、男子のアルコール症は1960年に全精神障害死亡の23%から年次と共に増え(表2参照)、1978年には48%を占めるに至った。このことが男子の平均死亡年齢の伸びを停滞させている。これに対して、女子のアルコール症の平均死亡年齢は1950年以降47歳前後と男子同様に低い値を示しているが⁶⁾、女子のアルコール症が全精神障害死亡中に占める割合は1960年に1.1%から1978年に5.4%と男子に比べて低率である。したがって、女子のアルコール症による死亡が全精神障害死亡に与える影響は少ない。しかし、女子の場合老年およ

表9 精神障害で死亡した者の年次・性別平均死亡年齢と標準偏差, 1950—1979年

年次	総数		男		女	
	平均死亡年齢	標準偏差	平均死亡年齢	標準偏差	平均死亡年齢	標準偏差
1950	47.94	20.18	47.61	20.09	48.23	20.27
1951	47.96	19.87	47.51	19.97	48.35	19.77
1952	48.26	20.40	47.63	19.98	48.79	20.73
1953	47.74	19.94	46.96	19.75	48.42	20.07
1954	47.66	19.75	47.41	19.65	47.88	19.84
1955	49.29	20.08	48.48	19.43	50.03	20.63
1956	51.03	20.20	50.42	20.05	51.60	20.33
1957	51.89	20.48	51.07	20.08	52.67	20.83
1958	53.86	20.16	53.05	19.99	54.67	20.29
1959	55.02	20.37	53.94	19.84	56.05	20.80
1960	56.28	20.08	54.02	19.77	58.56	20.14
1961	56.73	20.18	54.94	19.68	58.52	20.51
1962	57.14	20.23	54.67	19.44	59.47	20.67
1963	58.44	19.55	56.71	19.66	60.15	20.25
1964	58.80	19.82	56.52	19.10	61.11	20.27
1965	58.87	19.62	55.94	18.78	61.96	20.02
1966	59.85	19.51	56.97	18.92	63.08	19.65
1967	60.44	19.90	56.80	19.32	64.47	19.74
1968	61.75	18.80	58.22	18.06	65.51	18.85
1969	61.92	19.08	58.48	18.36	65.62	19.15
1970	61.97	19.17	57.79	18.82	66.50	18.50
1971	62.21	19.17	58.34	18.69	66.48	18.78
1972	63.13	18.79	59.01	18.31	67.74	18.23
1973	63.69	19.08	58.98	18.73	68.94	18.05
1974	62.55	18.71	57.63	18.12	68.08	17.78
1975	62.70	18.74	58.02	18.21	68.54	17.73
1976	63.30	18.67	57.86	17.57	69.71	17.88
1977	63.14	18.62	58.04	17.61	69.35	17.92
1978	63.99	18.45	59.34	17.77	69.42	17.73
1979	67.13	17.70	61.83	17.60	73.55	15.56

6) 今泉洋子・三田房美, 「戦後における精神障害の死亡に関する統計的分析, II. アルコール症とアルコール精神病」, 『人口問題研究』, 第163号, 1982年(近刊).

び初老期痴呆死亡が精神障害死亡中に占める割合は年次と共に上昇し、過去30年間にこの割合は40%も増えている。そこでアルコール症と老年および初老期痴呆を除いて、精神障害の平均死亡年齢を計算すると、男女の年齢差は1950年に0.36歳、1960年に1.90歳、1978年に2.71歳と非常に小さい。したがって、精神障害の平均死亡年齢が1960年以降男女で差がひらいてきたのはアルコール症と老年および初老期痴呆の影響であることがわかる。

V 精神障害の訂正死亡率と地域格差

厚生省統計情報部では1969年から死亡票のうち特定死因に関する資料をテープ保管している。そこで、これらの資料のうち精神障害により1973年から1977年の5年間に死亡した性・年齢・都道府県別死亡数を出し、これらの資料と1975年の国勢調査人口を用いて、性・年齢・都道府県別の精神障害死亡率を計算した(表10)。年齢階級は0～4歳、5～14歳、15～24歳、25～34歳、35～44歳、45～54歳、55～64歳、65～74歳、75歳以上の9区分を用いた。表10の右端の欄には、5年間合計の全年齢死亡数(年齢不詳を含む)を示してある。次に、性別の年齢訂正死亡率は上記9区分の年齢階級別死亡率によって直接法で計算したものである。訂正死亡率は1960年全国年齢階級別性別人口を基準として計算し、表10の左端の欄に示してある。まず男子について見ると、人口10万あたりの訂正死亡率は沖縄県(4.68)が一番高く、次に鹿児島県(4.61)、高知県(4.41)と続く。一方、一番低い訂正死亡率は石川県(1.49)、次に香川県(1.51)、京都府(1.53)、滋賀県(1.53)、富山県(1.54)と続く。女子について見ると、人口10万あたりの訂正死亡率は佐賀県(3.20)が一番高く、次に鹿児島県(3.00)、長崎県(2.59)、宮崎県(2.59)と続く。一方、一番低い訂正死亡率は沖縄県(1.27)、次が山梨県(1.28)である。次に、精神障害による訂正死亡率の地域格差を見やすくする為に、全国の男女別訂正死亡率を100とし、県別訂正死亡率指数を計算した。図3は男女別精神障害の訂正死亡率指数を示している。男女共に鹿児島県、佐賀県、長崎県、宮崎県で高い訂正死亡率指数を示している。次に高

図3 精神障害の訂正死亡率指数，1973—1977年（標準人口：1960年全国年齢階級別性別人口）

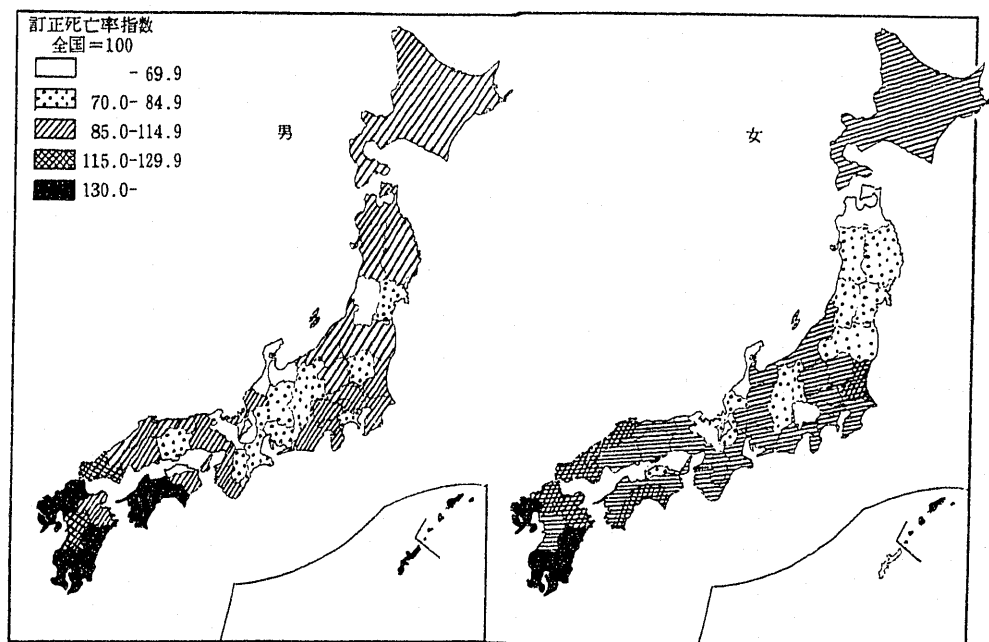


表10 精神障害の性・都道府県別訂正死亡率¹⁾ および年齢階級別死亡率 (人口10万対), 1973—1977年

男 子

都道府県	訂正死亡率	年 齢 階 級 別 死 亡 率										5年合計全年齢死亡数
		総数	0~4歳	5~14歳	15~24歳	25~34歳	35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	75歳以上	
全 国	2.46	3.10	0.27	0.22	2.40	5.96	18.33	23.83	30.87	55.90	168.72	8,530
北海道	2.67	3.28	0.42	0.23	3.16	7.30	18.52	22.22	28.28	56.56	243.48	430
	2.38	2.97	—	—	3.60	5.36	23.58	32.14	22.64	29.41	150.00	105
	2.48	3.20	—	—	3.03	12.00	16.83	25.00	35.71	35.14	133.33	107
	1.96	2.40	—	—	0.59	9.94	14.79	24.14	23.94	17.39	133.33	115
	2.49	3.32	—	1.05	6.82	5.62	8.70	25.61	29.63	73.53	133.33	98
山形県	1.66	2.39	—	—	—	6.90	19.54	13.25	14.29	44.74	78.57	70
	2.45	3.17	2.47	1.24	4.76	6.94	22.63	15.87	27.16	59.26	119.05	151
	2.46	3.09	—	—	6.18	5.94	17.34	16.91	34.83	53.33	162.50	179
	2.00	2.47	1.27	0.75	3.85	4.08	14.17	14.00	29.23	41.86	137.50	103
福島県	2.11	2.82	—	2.16	—	7.89	14.29	18.45	18.84	59.18	142.11	121
	2.18	2.20	0.37	0.24	3.08	4.72	13.73	20.80	25.93	57.83	150.00	268
	2.24	2.42	—	0.29	2.22	4.76	15.27	21.43	37.30	46.91	138.71	254
静岡県	2.58	2.88	0.20	0.12	1.38	6.25	21.23	33.39	30.11	52.34	149.44	850
	1.88	1.87	—	—	1.82	2.59	9.57	16.57	24.61	59.26	155.00	307
東京都	2.49	3.50	—	1.07	3.03	5.38	17.92	22.37	22.33	59.15	215.38	203
	1.54	2.02	2.13	—	2.99	5.56	8.00	15.15	23.40	32.26	63.64	52
富山県	1.49	1.97	—	—	—	3.26	8.45	13.11	29.55	51.72	54.55	51
	2.31	3.32	—	—	3.77	13.11	13.21	12.50	25.00	25.00	250.00	62
	2.32	3.32	—	—	1.85	3.39	22.22	24.49	36.36	33.33	160.00	63
	1.99	2.88	—	—	3.25	5.19	18.44	15.04	30.00	39.39	107.41	140
岐阜県	1.80	2.56	—	—	1.59	3.87	5.84	13.64	21.43	56.86	186.36	116
	2.49	3.04	1.94	0.37	3.36	7.38	21.03	21.28	32.46	50.63	137.14	252
	1.96	2.18	—	—	1.48	5.51	10.68	18.52	22.53	49.17	170.21	324
	1.74	2.52	—	—	1.83	5.30	15.83	11.46	16.13	45.83	133.33	99
滋賀県	1.53	2.07	—	—	—	2.35	11.59	21.43	15.79	57.14	54.55	50
	1.53	2.00	—	—	1.95	2.24	17.54	16.00	12.79	34.33	96.30	119
京都府	2.46	2.62	—	0.15	1.86	4.64	14.48	23.06	27.46	69.38	216.36	541
	2.16	2.73	—	0.26	2.77	3.90	14.48	16.73	27.68	51.24	189.80	335
	1.97	2.60	—	—	1.32	1.06	17.07	11.67	34.21	57.14	145.45	68
	2.25	3.17	2.17	—	1.47	8.33	17.72	20.90	36.36	39.39	106.67	82
大阪府	2.35	3.54	—	—	2.56	—	15.00	37.84	40.00	42.11	125.00	49
	2.76	4.80	—	—	4.26	9.80	16.98	25.00	22.22	67.86	228.57	88
	2.03	2.96	1.25	0.75	1.67	2.03	22.48	16.67	31.51	38.60	114.81	130
	2.33	3.27	—	—	1.61	5.83	13.76	20.26	30.39	52.94	215.15	212
徳島県	3.10	4.70	—	—	4.95	5.00	23.64	25.77	42.42	69.57	236.36	175
	2.63	3.90	—	—	3.77	10.00	20.69	19.23	21.21	96.00	116.67	75
香川県	1.51	2.52	—	—	1.64	—	19.40	10.00	7.50	50.00	133.33	58
	3.20	4.47	—	—	2.08	10.81	31.00	34.44	43.10	70.45	109.09	156
	4.41	7.14	—	—	2.04	8.33	42.86	62.26	48.57	92.59	213.33	137
	3.24	4.26	1.06	—	2.04	7.28	26.64	34.69	34.39	71.70	242.22	441
高知県	3.28	4.86	—	—	3.39	10.71	25.45	22.00	36.36	61.54	318.18	96
	3.28	4.45	—	—	3.39	8.41	29.13	30.43	36.67	81.82	200.00	167
	2.86	4.27	—	—	1.60	10.34	16.67	25.00	46.48	50.00	220.00	173
	2.55	3.84	—	—	5.13	12.94	17.28	13.70	24.00	51.35	211.11	108
	3.49	4.97	—	—	5.26	6.49	32.00	24.62	44.19	100.00	200.00	128
福岡県	4.61	6.82	—	0.69	5.08	12.62	35.14	42.86	75.00	89.09	246.15	274
	4.68	4.62	—	0.92	3.06	11.84	40.28	54.55	82.14	94.12	130.00	118
鹿 児 島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	230

注：1) 訂正死亡率は1960(昭和35)年全国性別人口を基準として計算した。

表10 (つづき)

女子

都道府県	訂正 死亡率	年 齡 階 級 別 死 亡 率										5年合 計全 齡死 亡 数
		総 数	0~4 歳	5~14 歳	15~ 24 歳	25~ 34 歳	35~ 44 歳	45~ 54 歳	55~ 64 歳	65~ 74 歳	75 歳 以 上	
全 国	1.95	2.55	0.21	0.17	1.65	2.95	5.78	8.63	16.42	44.28	200.52	7,262
北海道	1.79	2.03	0.44	0.24	0.93	2.65	5.87	10.67	13.06	40.00	179.69	276
	1.33	1.66	—	—	0.85	3.39	0.87	8.51	10.77	25.00	147.62	63
	1.60	2.04	—	—	1.98	8.65	6.25	9.09	13.04	24.44	118.18	73
	1.42	1.79	—	—	1.84	4.38	6.12	7.03	13.79	33.93	100.00	89
	1.39	1.93	—	—	1.09	3.23	6.93	5.32	15.38	37.21	100.00	62
山形	1.55	2.31	—	—	1.12	4.71	9.57	6.19	14.71	28.57	126.09	73
	1.43	2.06	—	—	2.58	2.84	4.86	5.63	8.00	33.82	141.67	105
	2.35	3.27	0.96	0.56	2.26	1.55	5.63	12.84	25.69	58.33	215.00	193
	1.99	2.57	—	—	2.26	6.43	9.40	9.09	18.99	51.92	133.33	111
	2.04	2.90	—	—	0.78	0.67	4.88	13.16	15.12	52.63	220.69	130
静岡県	2.07	1.97	—	—	1.80	2.77	5.59	5.65	16.05	48.45	236.96	235
	1.94	2.18	—	—	2.87	4.09	6.11	10.80	13.91	37.76	190.38	224
	1.87	2.05	0.21	0.26	1.74	1.66	5.11	8.37	15.38	40.43	206.11	589
	1.89	1.86	0.32	0.21	1.13	2.15	3.48	8.51	17.67	54.69	185.48	289
	1.78	2.73	1.06	—	1.18	1.09	5.11	4.68	12.60	38.89	220.93	168
富山	1.76	2.41	2.22	1.33	4.05	4.30	2.50	5.48	10.53	37.50	172.22	67
	1.34	2.00	—	—	1.32	1.06	2.63	4.29	14.55	47.37	115.79	55
	1.53	2.50	—	—	—	1.64	1.79	3.77	7.32	50.00	193.33	50
	1.28	2.03	—	—	1.69	1.67	5.45	1.92	11.90	20.00	150.00	41
	1.60	2.51	—	0.68	1.49	3.18	5.52	10.81	9.73	32.10	151.22	131
岐阜	1.84	2.43	—	—	1.37	3.14	10.14	8.40	16.28	39.66	163.33	117
	2.01	2.59	0.68	—	2.02	3.06	5.74	9.45	25.00	46.81	173.08	218
	2.02	2.20	0.35	0.22	1.08	4.01	5.35	8.33	13.96	56.43	198.55	326
	1.95	2.88	1.49	0.83	—	3.73	5.83	13.08	23.17	33.90	174.19	121
	1.65	2.38	—	—	1.35	1.20	7.35	9.84	20.41	29.41	150.00	60
京都	1.36	1.88	—	—	—	1.78	7.02	9.03	17.24	23.17	117.07	116
	2.10	2.17	0.25	0.16	1.14	2.12	5.73	8.53	14.75	42.93	252.87	450
	1.94	2.54	—	—	2.45	1.52	4.05	8.70	15.60	51.01	203.95	322
	2.14	2.89	—	—	1.20	3.03	11.54	9.38	22.45	60.00	161.11	80
	1.69	2.73	—	1.25	—	4.60	1.27	2.70	8.77	48.78	200.00	77
鳥取	1.79	3.16	—	—	7.32	—	2.33	2.27	24.24	39.13	173.33	48
	2.44	4.78	—	—	2.04	—	14.04	8.20	13.04	70.59	247.62	96
	1.72	2.74	—	—	1.53	4.64	5.84	5.00	18.48	36.23	164.10	128
	2.09	3.10	—	—	1.62	3.33	5.76	8.93	13.71	43.53	240.82	209
	2.37	3.92	—	—	0.92	3.88	4.24	8.18	16.87	70.18	257.58	159
徳島	2.20	3.14	—	1.75	6.56	6.45	8.33	10.17	27.91	25.00	152.94	66
	1.63	2.84	—	—	1.47	—	2.82	5.88	17.31	21.62	223.81	71
	2.07	3.34	—	—	0.93	2.54	7.34	8.65	24.00	56.36	181.25	128
	2.52	4.85	—	—	1.92	1.59	10.00	16.39	10.87	55.88	277.27	103
	2.53	3.53	—	0.32	1.46	3.38	5.20	7.91	17.17	51.52	322.22	392
佐賀	3.20	5.24	—	1.52	2.94	6.45	6.78	15.25	26.67	60.61	336.84	116
	2.59	3.90	—	—	2.46	3.39	7.08	10.19	31.17	56.36	254.84	160
	2.03	3.36	—	—	1.50	3.94	7.69	6.45	15.22	54.55	197.44	152
	2.29	3.66	—	—	4.49	5.32	6.67	5.75	12.50	44.44	257.69	115
	2.59	3.93	—	—	2.41	3.61	7.23	6.49	26.79	37.84	319.05	112
鹿児島	3.00	4.98	—	—	3.08	13.51	8.73	16.67	24.27	45.21	270.45	229
	1.27	1.50	—	—	—	2.78	8.70	11.54	10.81	33.33	68.42	40
鹿 不	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27

表11 都道府県・性別老年および初老期痴呆死亡率の推移

(人口10万対)

都道府県	1950—1959 ¹⁾		1960—1969 ²⁾		1970—1978 ³⁾		1950—1978	
	男	女	男	女	男	女	男	女
全 国	6.45	7.58	6.94	8.94	4.59	5.96	5.85	7.32
北海道	8.08	8.76	10.22	10.15	5.45	5.32	7.70	7.66
	3.34	5.10	3.14	4.04	2.90	3.73	3.10	4.16
	3.42	4.43	3.93	4.53	2.57	2.54	3.25	3.66
	4.05	4.95	2.97	4.78	2.87	2.82	3.21	3.97
	6.47	5.72	3.67	4.45	3.50	3.57	4.35	4.39
山形県	11.82	10.87	6.83	8.70	2.73	4.11	6.62	7.38
	3.78	5.54	4.21	5.02	3.68	4.42	3.88	4.91
	4.50	4.52	4.84	5.65	3.90	5.84	4.38	5.43
	3.80	5.69	5.90	5.97	3.70	4.67	4.45	5.36
福島県	5.95	4.94	3.98	5.57	4.00	4.69	4.53	5.04
	14.01	19.52	7.29	9.62	3.65	5.39	7.20	9.76
	4.00	4.57	4.60	5.81	3.71	5.45	4.06	5.35
	5.07	7.00	6.65	9.61	3.80	5.57	5.07	7.21
奈良県	5.03	5.06	7.05	9.12	3.94	5.38	5.13	6.46
	7.30	8.85	6.90	7.61	4.95	5.47	6.24	7.06
	10.47	9.45	5.38	6.74	2.19	4.34	5.46	6.43
富山県	6.47	7.88	5.64	6.08	2.67	4.32	4.70	5.84
	7.60	7.98	8.51	11.64	5.11	6.13	6.96	8.42
	3.52	3.90	5.41	6.59	2.59	4.27	3.78	4.92
	6.76	8.14	6.24	7.18	3.30	4.90	5.25	6.51
岐阜県	7.55	6.84	6.29	6.58	5.04	3.94	6.15	5.54
	5.87	5.80	4.21	5.57	3.50	5.39	4.37	5.55
	5.24	5.55	4.76	6.12	4.55	5.78	4.79	5.83
	6.01	7.46	5.83	9.32	3.36	4.82	4.95	6.98
静岡県	5.75	7.81	6.47	8.75	2.53	4.77	4.77	6.89
	7.05	10.23	6.90	11.20	2.86	4.12	5.36	7.98
	6.64	8.31	8.16	12.79	5.78	7.19	6.77	9.25
	5.80	7.72	7.19	10.19	5.34	7.07	6.08	8.24
京都府	5.48	6.19	7.41	11.11	4.22	6.29	5.58	7.78
	5.44	5.83	5.15	6.79	3.94	5.61	4.77	6.05
	4.92	8.07	9.66	11.27	4.78	7.84	6.43	9.01
	8.28	12.66	11.40	15.43	7.82	9.62	9.13	12.38
鳥取県	7.04	8.05	7.65	9.91	3.93	6.28	6.07	7.94
	10.15	9.24	9.51	12.53	5.73	7.36	8.17	9.51
	7.47	8.30	8.79	13.05	6.97	8.91	7.72	10.09
	5.30	7.29	6.67	8.19	5.26	5.28	5.74	6.78
徳島県	6.23	7.81	8.19	10.57	4.28	7.59	6.13	8.61
	6.32	5.69	5.90	6.81	4.43	5.78	5.47	6.09
	6.33	4.92	8.80	12.84	6.98	9.02	7.39	9.10
	5.71	6.96	10.36	12.13	6.39	9.41	7.52	9.68
香川県	6.67	8.51	9.33	10.55	9.84	10.43	8.73	9.94
	6.08	7.66	7.71	10.24	6.68	8.68	6.85	8.91
	6.27	8.07	7.48	8.59	5.20	6.61	6.27	7.65
	5.57	7.56	5.79	9.36	5.60	7.16	5.65	7.98
高松市	7.15	9.39	9.01	11.70	6.74	8.34	7.60	9.69
	5.93	7.17	4.69	7.78	6.65	7.96	5.79	7.69
高松市	—	—	—	—	2.07	1.69	2.07	1.69

1) 分母は1955年50歳以上の国調・性別人口を10倍したもの。 2) 分母は1965年50歳以上の国調・性別人口を10倍したもの。 3) 分母は1975年50歳以上の国調・性別人口を10倍したもの。

い指数を示す県は男女共に高知県、福岡県、山口県である。一方、男女共に低い指数を示す県は石川県、京都府、宮城県、山形県、滋賀県、香川県、長野県である。したがって、訂正死亡率は東で低く西で高い傾向がみられる。そこで、訂正死亡率が東低西高であるか否かを統計的に検定するため、訂正死亡率と緯度（北緯）との相関係数を計算した。その結果、相関係数は男子が -0.53 、女子が -0.41 で共に 1% 水準で統計的有意差が得られた。一方、人口10万あたりの精神病床数は東日本より西日本の方が高い⁷⁾。そこで、1973—1977年の府県別訂正死亡率と病床数との相関係数を計算したところ、男子では 0.70 、女子では 0.50 と共に 1% 水準で有意差が得られた。

次に、老年および初老期痴呆死亡率の地域格差を1950年から1978年に渡り調べた⁸⁾（表11）。老年および初老期痴呆により50歳未満で死亡する者の割合は男女共に 0.7% 以下と低いため（表6）、本疾患の府県別死亡率の計算には50歳以上の人口を用いた。1950—1959年、1960—1969年、1970—1978年の死亡率の計算には、それぞれ1955年、1965年、1975年の性・府県別国勢調査人口を用いた。沖縄県の値は1973年以降の資料に基づくため、死亡率の地域格差を論ずる際に沖縄県を除いた。全年次に渡り男子の老年および初老期痴呆死亡率（人口10万対）で一番高いのは島根県（ 9.13 ）、次に佐賀県（ 8.73 ）、広島県（ 8.17 ）と続く。一方、女子の死亡率で一番高いのは島根県（ 12.38 ）、次に山口県（ 10.09 ）、佐賀県（ 9.94 ）と続く。これに対して、一番低い男子の死亡率（人口10万対）は青森県（ 3.10 ）、宮城県（ 3.21 ）と続く。一方、女子の死亡率で一番低いのは岩手県（ 3.66 ）、宮城県（ 3.97 ）と続く。以上から、本疾患の死亡率は男女共に西日本で高く、東日本で低い傾向がみられる。そこで、死亡率と緯度（北緯）との相関係数を3年次群で計算した。その結果、一番古い年次群での相関係数は男女共に有意差が得られなかったが、新しい2年次群における相関係数は男女共に統計的有意差が得られた。すなわち、本疾患の死亡率は東低西高であることが判明した。一方、老年および初老期痴呆による死亡率は年齢と共に上昇する。このことは、老年人口が多い県の方が少ない県より本疾患による死亡率は高いことが期待される。そこで、府県別の死亡率と老年人口指数の相関係数を計算した。老年人口指数は1955年、1965年、1975年の国勢調査人口を用いた。一番古い年次群（1950—1959年）と中間の年次群（1960—1969年）においては男女共に相関係数は有意差が得られなかった。一方、一番新しい年次群（1970—1978年）では、男女共に相関係数は有意であった。このことは、老年人口指数が高い県で本疾患による死亡率が高いことを示すものである。

VI 老年および初老期痴呆死亡数の将来予測

石井⁹⁾は高齢人口増加により必然的にわが国の老年精神障害が増加すると指摘している。本章では、老年および初老期痴呆による死亡数の将来予測を試みたい。

表12は性・年齢階級別老年および初老期痴呆死亡数と死亡率の将来予測を示している。老年および初老期痴呆死亡数を推定する時、性・年齢階級別の本疾患による死亡率は将来ともに1978年の値を仮定し、老年人口の上昇のみで本疾患による死亡数並びに死亡率がどの程度増加するかを1980年から2075年まで試算した。性・年齢階級別人口推計は人口問題研究所が1981年11月に発表した将来人口新推計の中位推計を用いた。その結果、男子の老年および初老期痴呆死亡率は1978年に人口10万あた

7) 宗像恒次、「統計にみる我が国の精神医療福祉」、『精神衛生資料』、第24号、1979—80年、pp. 11—131。

8) 人口動態統計に掲載されていない特別製表による。

9) 石井毅、「精神衛生のこれからの社会的諸問題—老人とアルコール中毒を中心として—」、『厚生指針』、第16巻9号、1969年、pp. 49—54。

表12 性・年齢階級別老年および初老期痴呆死亡数と死亡率の将来予測

性別	年次	老年および初老期痴呆死亡推定数							死亡率の推定値(人口10万対)
		総数	15~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	
男子	1980	464	6	15	18	43	67	315	0.81
	1985	555	6	19	22	44	75	389	0.94
	1990	649	6	20	30	54	78	461	1.07
	1995	739	6	21	33	72	96	511	1.20
	2000	874	6	24	34	82	130	598	1.38
	2025	1,522	5	23	34	77	159	1,224	2.43
	2050	1,464	5	19	28	71	151	1,190	2.45
	2075	1,269	5	18	28	73	146	999	2.16
女子	1980	850	1	30	32	56	116	615	1.43
	1985	1,049	1	33	39	61	137	778	1.72
	1990	1,263	1	35	44	73	149	961	2.02
	1995	1,471	1	37	49	84	180	1,120	2.31
	2000	1,714	1	42	50	92	207	1,322	2.64
	2025	2,722	1	39	47	87	249	2,299	4.22
	2050	2,569	1	32	39	78	230	2,189	4.21
	2075	2,199	1	31	39	80	219	1,829	3.69

り0.77から2000年には1.8倍の1.38になり、2050年には3.2倍の2.45になり、2075年には2.16と減少傾向がみられる。一方、女子の死亡率は1978年に人口10万あたり1.34から2000年には2倍の2.64になり、2025年には3.1倍の4.22になり、2050年には4.21と僅かに減少のきざしがみられる。したがって、これから先わが国においては男女共に老年および初老期痴呆による死亡が増え、2050年の本死因による死亡率は1978年の値の3倍に増えることが予測される。

VII 精神障害の受療率と有病率

前章までは精神障害死亡率について述べたが、本章では精神障害受療率、有病率および死亡率の比較を行いたい。

1 受療率

表13は性・年齢階級別精神障害受療率の年次推移を示している。1960年から1979年までの0~14歳での受療率は人口10万あたり男子は6~31、女子は4~26で20年間の平均値はそれぞれ14と11であった。男女共に受療率は年次に対し横ばい傾向を示している。これに対し、15~34歳の受療率は男女共に1960年から1968年まで上昇し、その後1974年まで横ばいを続け、その後減少に転じている。20年間の受療率の平均値は人口10万あたり男子は296、女子は203で、後者は前者の69%に相当する。男女間の受療率の差は人口10万あたり66から115の間であり、年次変動は比較的小さい。次に、35~64歳での受療率は男女共に年次と共に上昇している。過去20年間に男子の受療率は3倍、女子の値は2.4倍も上昇した。20年間の受療率の平均値は人口10万あたり男子は431、女子は330で後者は前者の77%に相当する。男女間の受療率の差は1960年に人口10万あたり19、1965年に69となり、1966年以降この差は年次と共に急速に広がり1979年には158と差がひらいた。次に、65歳以上の受療率は年次と共に男

表13 性・年齢階級別精神障害受療率の年次推移

(人口10万対)

年次	総数		0～14歳		15～34歳		35～64歳		65歳以上	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1960	127	100	6	4	195	129	180	161	86	93
1961	145	109	10	8	215	145	209	169	112	71
1962	160	124	12	14	221	150	241	190	128	123
1963	177	138	12	10	244	170	262	213	124	123
1964	198	158	10	8	266	183	295	253	148	135
1965	233	181	15	9	297	205	358	289	169	168
1966	243	184	10	10	291	202	389	298	194	164
1967	258	208	13	10	311	222	404	329	201	226
1968	286	228	23	18	332	235	447	359	237	257
1969	290	224	19	15	329	229	463	355	246	247
1970	280	211	16	11	327	223	441	332	225	222
1971	299	226	16	12	342	228	475	364	259	243
1972	297	228	11	8	334	220	481	369	254	276
1973	303	232	18	12	327	226	502	370	264	287
1974	312	243	12	8	344	229	517	400	261	291
1975	305	234	11	11	319	209	509	384	300	311
1976	305	250	16	10	312	216	515	409	281	344
1977	318	243	13	13	311	222	549	391	297	306
1978	305	240	31	26	295	205	511	384	287	312
1979	318	244	10	10	285	195	548	390	364	389
平均値	262	203	14	11	296	203	431	330	235	246

資料：厚生省統計情報部「患者調査」

女共上昇している。過去20年間の受療率の平均値は人口10万あたり男子は235、女子は246で、ほとんどの年次において女子の方が男子より僅かに高い受療率を示した。

ほとんどの年次を通じて男女共に35～64歳の精神障害受療率が一番高い値を示している。次に高い受療率は男子では15～34歳、女子では1960年から1966年までは15～34歳、1971年以降は65歳以上でみられた。男女共に0～14歳を除いた年齢階級別受療率は年次と共に有意に上昇している。

2 有 病 率

表14は1968年から1979年に渡る性・年齢階級別精神障害有病率の年次推移を示している。1968年の15～24歳、25～64歳の有病率は年齢区分が他の年次と異なるため得られなかった。男女共に全年齢精神障害有病率は年次に対し横ばい傾向を示している。1968—1979年または1969—1979年の年齢階級別有病率の平均値を比較すると、男女共に25～64歳で一番高い値を示し人口千あたりそれぞれ1.65、1.50であった。次に高い値は男女共に65歳以上で、それぞれの値は1.18、1.44であった。15～24歳での有病率は人口千あたり男子0.76、女子0.58、0～14歳でのそれぞれの値は0.05、0.09で女子の方が男子より2倍近く高い値が得られた。

以上のことから、精神障害受療率は年次と共に増加、精神障害有病率は横ばい傾向、精神障害死亡率は減少していることがわかった。次に、1979年におけるこれら3種類の値を男女で比較すると、男

表14 性・年齢階級別精神障害の有病率

(人口千対)

年次	総数		0～14歳		15～24歳		25～64歳		65歳以上	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1968	1.1	0.9	0	0	—	—	—	—	1.7	0.3
1969	1.0	0.8	0	0.2	1.4	0	1.5	1.4	0.4	1.2
1970	1.0	1.1	0.2	0	1.0	0.5	1.5	1.9	0.7	0.9
1971	1.1	0.8	0.2	0	1.1	0.4	1.5	1.3	1.7	1.4
1972	1.0	1.4	0	0.8	0.5	1.4	1.5	1.7	2.1	0.9
1973	1.5	1.1	0	0.2	0.3	1.3	2.7	1.5	1.2	1.4
1974	0.9	1.5	0	0	0.5	0.5	1.6	2.3	0	2.7
1975	0.8	0.9	0	0.2	0	1.3	1.5	1.1	0	1.2
1976	1.2	0.9	0	0.3	1.0	0.5	1.9	1.3	0.5	1.1
1977	1.0	1.0	0	0	0.3	0.5	1.5	1.2	1.5	2.3
1978	0.9	1.0	0	0	0.6	0.3	1.6	1.5	0.5	1.5
1979	1.2	1.2	0.2	0	0.3	0.9	1.7	1.6	2.8	2.5
平均値	1.1	1.0	0.05	0.09	0.76	0.58	1.65	1.50	1.07	1.44

資料：厚生省統計情報部「国民健康調査」

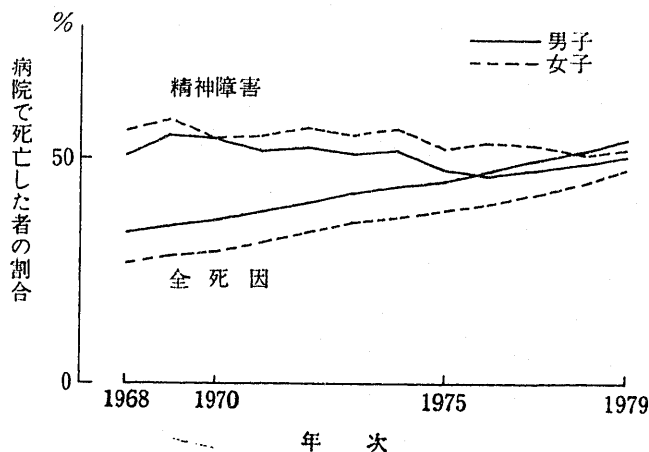
子100に対する女子の値はそれぞれ77, 100, 80で、精神障害受療率と死亡率は男子の方が女子より高いことがわかる。

Ⅷ 精神障害と全死因の比較

1 死亡の場所

図4は精神障害と全死因につき病院で死亡した者の割合の年次推移を男女別に示している。精神障害により病院で死亡した者の割合は男女共に年次に対して横ばい傾向を示し、この割合は50%前後である。一方、全死因に対するこの割合は1968年に男女共に30%前後から年次と共に上昇し1979年には男子54%、女子47%と精神障害の値と同程度になってきた。なお、1968年から1979年に渡り精神障害

図4 精神障害と全死因による死亡者のうち病院死亡者割合の年次推移



により自宅で死亡した者の割合は、男女共に40%前後で年次的変動はみられなかった。一方、全死因に対するこの割合は年次と共に減少している。

2 死亡の季節

1968年から1979年に渡る精神障害と全死因の死亡季節別平均死亡率をみると、両者共に一番高い値は1—3月、次に10—12月、4—6月、7—9月と順次低くなっている。人口10万あたりの精神障害死亡率は、それぞれ3.6, 3.1, 2.7, 2.6であった。一方、全死因のそれぞれに対応した死亡率は754.5, 644.1, 609.8, 575.5であった。精神障害と全死因による死亡率の季節的変動は統計的に有意差が得られた。

3 精神障害と職業

1975年から1978年の4年間に渡り全死亡者中の精神障害による死亡者の占める割合を世帯業態別に調べた。一番高い値はその他の世帯(0.0061)、その次が常用勤労者世帯Ⅱ(0.0043)、専業農家世帯(0.0035)、常用勤労者世帯Ⅰ(0.0032)と続き、一番低い値は兼業農家世帯(0.0029)と自営業者世帯(0.0029)であった。これらの値は6種類の世帯業態間で有意差が得られた。即ち、職業により精神障害死亡率は異なることが判明した。

IX 結 語

戦後における精神障害死亡内訳の年次変動は目覚ましく、1950年代に高い死亡率を示していた疾病が1960年以降急速に減少し、高度経済成長と共にアルコール症による死亡率が高まり1978年には男子の精神障害死亡者中アルコール症の占める割合は48%に至っている。一方、老年および初老期痴呆死亡率は男子の場合、年次に対し横ばい傾向、女子の値は年次と共に僅かに上昇し1978年には女子の精神障害死亡者中本疾患の占める割合は62%に至っている。今後、高齢化社会が進んで行くわが国においては、男女共に老年および初老期痴呆による死亡が増え、2050年には本死因による死亡率は現在の値の3倍に増えることが予測される。したがって、将来に向けて老年痴呆患者の対策を今から考えて行く必要があると思われる。

Statistical Analysis on Mental Disorders in Japan.
I. Mortality Rates of Mental Disorders, Senile and
Pre-senile Dementia

Yoko IMAIZUMI and Fusami MITA

Annual changes in the number of deaths caused by mental disorders and its mortality rate have been examined using data on vital statistics since 1950. The mortality rate of mental disorders was decreased with the year for both sexes. The rates of senile and pre-senile dementia for females, alcoholic psychosis for males, and alcoholism for both sexes were increased with the year, whereas the rates of schizophrenia, affective psychoses and mental retardation for both sexes were decreased with the year during the period 1950-1978.

For mental disorder, standardized death rates by prefecture were separately computed for both sexes during the period 1973-1977. The rates for both sexes were higher in the southwest than the northeast. Mortality rates of senile and pre-senile dementia by prefecture were also computed for both sexes during the period 1950-1978. The rates for both sexes were higher in the southwest than the northeast.

Mortality rate of senile and pre-senile dementia will be expected to increase in the future. The rate in 2050 will be increased three times as high as the rate in 1978 for both sexes.